

【学力向上フロンティアスクールにおける取組】(中学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	潮平中学校						
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数	
学級数	4	4	4	0	12	24	
生徒数	130	143	139	0	412		

研究の概要

1. 研究課題

生きる力を育成するための指導方法の工夫 ~少人数指導及び選択教科の工夫・改善を通して~
--

2. 研究内容与方法

(1)実施学年・教科

少人数指導 1、3年・数学(生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。) ・1学級を習熟度別に2グループに分け、2人の教師が担当する。 1、2年・国語(学校として、当該教科に関する研究実績があるため。) ・数学科と同様であるが、国語科においては、領域によって等質指導も取り入れながら進めた。 選択教科の工夫・改善 コースの拡大 ・1年 国・数・理・体・家・英 (週1時間・6教科・8コース) ・2年 国・社〔前〕・音〔後〕・理・美・体・技・家・英(週2・9教科・9コース) ・3年 国・数・理・音・体・技・家・英 (週2・8教科・14コース) 国・数・英・理の4教科に、発展、課題、補充のコースを設けて、同一時間帯に授業を実施している。 1、2年は前・後期で異なる1教科を受講し、3年は前期で異なる2教科を受講し後期は前期受講した教科以外の2教科を受講する。

(2)年次ごとの計画

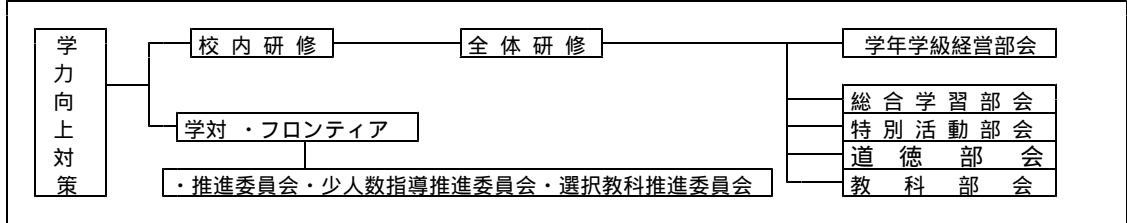
平成14年度	テーマ 生きる力を育成するための指導方法の工夫 ~少人数指導及び選択教科の工夫・改善を通して~ 仮説 ・国語科及び数学科における少人数指導の場において、きめ細かな指導をすることで基礎学力が定着するであろう。 ・選択教科のコースを拡大し、生徒の選択肢を増やすことで、個に応じた指導を行い、生徒の興味、関心も深まるであろう。 研究内容・方法 ・1年数学及び2年数学での少人数指導の取り組み。 ・2年国語での少人数指導の取り組みと1年の古典単元のための少人数指導の取り組み。 ・選択教科で多くのコースを開設し、充実させる。5教科に関してはできるだけ基礎コースと発展コースを同時に開設する。 ・校内研修を充実させ、教師の資質向上を図る。
--------	---

平成15年度	テーマ 前年度同様 仮説 ・国語科及び数学科における少人数指導の場において、学年・教科において個に応じたきめ細かな指導をすることで基礎学力が定着するであろう。 ・選択教科のコース拡大及び充実を図り、継続指導等の工夫をすることで、能力を伸ばす、あるいは基礎学力を定着させることができるであろう。 研究内容・方法 ・少人数指導で習熟度別授業形態をつくる。 ・少人数指導と基礎学力向上との相関関係を明確にすべく、データ収集の方法について研究する。 ・学習指導カウンセラーの活用により、主に国語科において実践研究を進める。 ・選択教科において発展コース、課題コース、補充コースの工夫改善をする。 ・選択教科において前期・後期の2期制や受講の形態等について、更に工夫改善する。
--------	--

平成16年度	テーマ・仮説 前年度同様 研究内容・方法 ・2年間の反省を活かし、少人数指導の指導形態や指導方法を見直し改善する。 ・学習指導カウンセラーの活用により、主に国語科において実践研究を深める。 ・選択教科において発展コース、課題コース、補充コースの充実を目指す。 ・選択教科において前期・後期の2期制や受講の形態や、個に応じた指導方法について、更に工夫改善する。 ・少人数指導と基礎学力向上との相関関係を明確にすべく、データ収集に努め、しまとめる。
--------	--

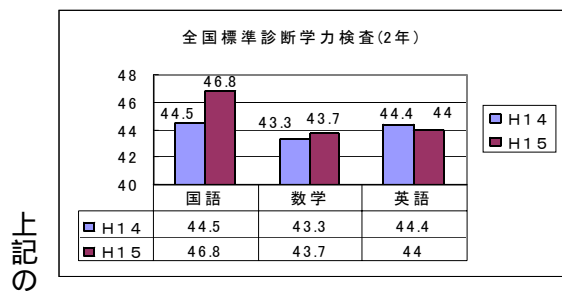
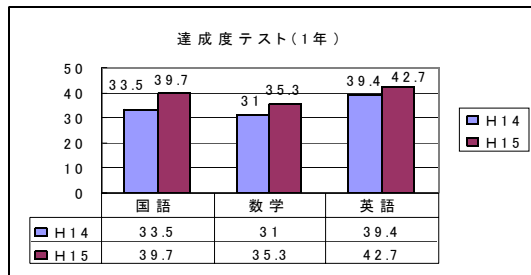
(3) 研究体制

昨年度フロンティアの位置づけが、はっきりとしていなかったため、明確にした。



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果



上記の

グラフの分析

1学年においては、平均点が前年度と比べ3教科全て上回っている。2学年においては、前年度に比べ英語の平均点が下がってしまったが、国語、数学においては平均点が上昇した。少人数指導や、選択教科のコース別指導におけるきめ細かな指導の成果だと思われる。

2. 今後の課題

少人数指導

- ・効果的に学習指導するための少人数編成
(例：さらに学習効果を高めるために1クラスを2コースに分ける方法から2クラスを3コースに分ける方法を取り入れてみる)
- ・標準学力検査や知能検査の結果を活用した指導方法や授業の改善
- ・少人数指導を担当している教師の打ち合わせ時間や教科会の確保
- その他
- ・選択教科の2期制(前期・後期)に伴う継続指導の在り方
- ・各種取り組みに対する生徒の変容のとらえ方の工夫

学力把握のための学校としての取り組み

- ・教育委員会による学力検査の実施(年1回) ・定期テスト(年5回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・系満市学力向上実践発表会における生徒による発表(1月17日)
- ・島尻地区学力向上実践発表会における発表(2月21日)

~~~~~

次の項目ごとに該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

|                     |            |            |        |       |      |
|---------------------|------------|------------|--------|-------|------|
| 【新規校・継続校】           | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 |        |       |      |
| 【学校規模】              | 3学級以下      | 4～6学級      | 7～9学級  |       |      |
|                     | 10～12学級    | 13～15学級    | 16学級以上 |       |      |
| 【指導体制】              | 少人数指導      | T・Tによる指導   |        |       |      |
|                     | その他        |            |        |       |      |
| 【研究教科】              | 国語         | 社会         | 数学     | 理科    |      |
|                     | 外国語        | 音楽         | 美術     | 技術・家庭 | 保健体育 |
|                     | その他        |            |        |       |      |
| 【指導方法の工夫改善による加配の有無】 |            |            | 有      | 無     |      |